

Cellula natans elongata cum parte anteriore rotundata, parte posteriore late obtusa, 3-4 lobata, ventraliter plusminus applanata et plerumque cum sulco vadoso longitudinali in parte anteriore modo distincta, 55×14 micr. Flagella 2 dissimilares, principale directa, natans vel forte curvata, natans cellulae longiora, secundare tenuis duplo brevius. Cytoplasmates cum granulis periphericis refractis numerosos. Chloroplastes in fronte visa rotundatus, in latere vel sectione visa ellipsoideus seriatim in latere dispositus. Pusula subsphaerica. Nucleus fere centralis, status quietis in muco amorpho cum cellulis semper sexangulari vel 3-4-lobato (Fig. 1: 19). Hab. 5, 6, 7.

* * * *

著者らは1962—1966年間17回に亘って調査研究したブラジル産の *Vacuolaria* (Euglenophyta, Chloromonadaceae) の種類について記載した。ブラジル産は、特殊な生育地に限られて分布する既知のヨーロッパ産の種類とは異なり、本文には、ブラジル産11新種と既知のヨーロッパ産3種をも含めて記載、図示した。

○外来のナデシコ種 (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: A new alien in Japan

長野県東筑摩郡本郷村に在住の奥原弘人氏は、西筑摩郡日義村宮ノ越の国道沿線で、1967年9月2日に外来のナデシコをとられた。この草は既に那須御用邸の方々により採集され、*Dianthus Armeria* L. と考定されているもので、恐らくわが国における2回目のものであろう。花が小さく、従来の習慣で石竹とよばれた型で、ミヤマナデシコ形のものだが、葉その他の部分に毛が生えている。和名はどなたかがつけられていると思うが、公表されたものはないのでノハラナデシコと命じておく。(東邦大学薬学部)

□花の構造 佐竹義輔(監修) pp. 8+8, 40 pl. B 5 版, ¥2,000 少年写真新聞社。花の写真を大きく引き伸して読者に提供しようという試みは、丁度ライカ・カメラが出現した頃、Paul Wolff によって *Formen der Leben* という題目で、1930年に出版されたのが初まりではないかと思われる。本書は花、特にその部分、断面などを白黒の写真に拡大して、顕花植物の多様性を生き生きと見せ、教育上、花のより深い理解のために企画されている。各写真は厚い紙に載り、1枚ずつは必ずしも使える。専門家もこれらをじっと見ていてと何らかの発見がありそうな写真集である。(津山 尚)